

# サム・アルトマンCEO「India AI Impact Summit 2026」講演内容と各界の反応に関する調査レポート

作成日: 2026年2月22日

作成者: Manus AI

## 1. はじめに

本レポートは、2026年2月にインドのニューデリーで開催された「India AI Impact Summit 2026」における、米OpenAIのサム・アルトマンCEOによる基調講演の内容と、それに対する国内外の専門家、メディア、一般市民の反応を多角的に調査・分析したものである。アルトマン氏が提示した「2028年末までの超知能（ASI）到達」という大胆な予測は、技術界のみならず、経済、政治、社会全体に大きな議論を巻き起こした。本稿では、その詳細と背景、そして多様な評価を整理し、包括的な概観を提供することを目的とする。

## 2. サム・アルトマン氏の講演内容

アルトマン氏の講演は、AI技術の未来に関する具体的なタイムラインと、それに伴う社会変革への深い洞察、そして国際社会が取るべき行動についての提言を含んでいた。主要なポイントは以下の通りである。

### 2.1. 2028年末の「超知能（ASI）」到達予測

講演の最も注目すべき点は、**2028年末までにAIが人間の知的能力を上回る「超知能（Artificial Superintelligence: ASI）」に到達する**との見通しを示したことである<sup>1</sup><sup>2</sup>。アルトマン氏は、「現在の技術開発のペースが続けば、数年以内に真の超知能の初期バージョンが誕生する」と予測し、「2028年の終わりまでに、世界の知的財産の大部分が人間の脳内ではなくデータセンター内に存在するようになる」と述べ、この変革が不可逆であることを強調した<sup>3</sup>。

「超知能は、人間のトップクラスの専門家をあらゆる知的領域で凌駕する存在である。研究開発の現場においては、最高レベルの科学者を超える精度と速度で新規性のある研究成果を生み出し、企業の経営層が担う複雑な意思決定プロセスにおいても、人間のエグゼクティブを上回る判断を下すようになる。」<sup>1</sup>

この予測の根拠として、アルトマン氏はOpenAI社内のベンチマーク「First Proof」の結果に言及した。このテストでは、AIモデルが未発表の研究レベルの数学問題10問中7問を解くことに成功し、AIが単なる情報検索ではなく、新たな知識を生成する能力を持つことを示したとされている<sup>4</sup>。

## 2.2. 社会・経済へのパラダイムシフト

ASIの登場は、社会経済システムに根底からの変革をもたらすとアルトマン氏は論じた。AIとロボット工学の融合により、あらゆる物資の生産コストが劇的に低下し、高品質な医療や教育へのアクセスが普遍化することで、未曾有の経済成長が実現する可能性がある<sup>1</sup>。一方で、既存の雇用構造は破壊され、人間はGPU（画像処理半導体）の労働力に勝つことが困難になると予測。人間は、機械には代替できない関係構築や創造性の発揮といった新たな役割を見出す必要があると示唆した<sup>3</sup>。

## 2.3. AIの民主化と国際的ガバナンスの必要性

アルトマン氏は、ASIがもたらす強大な力が特定の国家や企業に独占されることへの強い警鐘を鳴らした。技術の一極集中は、全体主義的な支配や社会の監視・統制を強化するリスクを孕んでいると指摘<sup>1</sup>。その上で、以下の3つの原則を提唱した。

原則	内容
AIの民主化	技術の恩恵を広く分散させ、一部の権力者に集中させないことが唯一公正かつ安全な道である。
社会全体のレジリエンス	AIがもたらすリスク（例：生物兵器開発への悪用）に対し、社会全体で防御策を構築する必要がある。
幅広い社会的関与	AIの未来は予測不可能であり、技術と社会が相互に作用しながら進化していくため、継続的な対話と準備が不可欠である。

そして、この国際的なガバナンスを実現するための具体的な枠組みとして、**国際原子力機関（IAEA）のような国際的な監督機関の設立**を提案した<sup>2</sup><sup>5</sup>。これは、AIの急速な進化に対応し、リスクを管理するための国際協調が急務であるとの認識を示している。

## 3. 各界の反応と評価

アルトマン氏の講演は、期待と懐疑、称賛と批判が入り混じる、極めて多様な反応を引き起こした。

### 3.1. 肯定的な反応と期待

- **技術的楽観主義**: 特にテクノロジー業界や加速主義的なコミュニティでは、アルトマン氏の予測は熱狂的に受け止められた。ASIが貧困、病気、環境問題といった人類の長年の課題を解決するとの期待が高まっている<sup>6</sup>。

- **インドの役割への期待:** アルトマン氏がインドを「AIの進化を形作り、統治するための重要なパートナー」と位置づけたことは、インド政府および産業界から好意的に受け止められた。サミットでは、モディ首相が「責任あるAI」のための3つの指針を掲げ、リライアンス・インダストリーズのムケシュ・アンバニ会長は「AIは雇用を奪うのではなく、新たな高スキル職を創出する」と楽観的な見方を示した 7 8。また、サミット期間中には、OpenAIとタタ・グループ傘下のTCSが、インド国内でのデータセンター構築で提携することが発表され、インドのAI大国化への期待をさらに高めた 9。

## 3.2. 懐疑的な見方と批判

一方で、アルトマン氏の予測とその意図に対して、多くの専門家やメディアから懐疑的な声が上がっている。

- **技術的実現性への疑問:** 多くの専門家は、現在の生成AI技術の延長線上でASIを実現することの困難さを指摘している。特に、AIが事実に基づかない情報を生成する「ハルシネーション」問題の根本的な解決なくして、真の知能は実現できないとの批判がある 10。また、「First Proof」の結果についても、AIが解いたとされる問題は限定的であり、人間の数学者の助けなしには達成できなかったとの指摘もある。Scientific American誌は、この挑戦の結果を「まちまち (mixed)」と評価し、AIが数学者に取って代わるには程遠いと結論付けている 11。
- **経済的・地政学的な動機:** アルトマン氏の発言を、OpenAIが直面する経営的な課題や、米中間の技術覇権争いを背景とした戦略的な動きと見る向きも強い。Mediumに掲載されたある批評記事は、アルトマン氏のインドへの接近を、米国内でのAIバブルへの懸念が高まる中、新たな市場と資金を確保するための「地政学的な一手」と分析している 10。i10X.aiの記事も同様に、アルトマン氏がAI開発競争の焦点を、ソフトウェアからインフラ（計算資源、エネルギー、半導体）へと意図的にシフトさせ、巨額の投資を正当化しようとしていると指摘している 12。
- **「知的キャパシティ」の定義の曖昧さ:** MIT Technology Reviewなどの批評家は、アルトマン氏が用いた「データセンターの知的キャパシティが人間を超える」という表現の定義が曖昧であることを問題視している。計算能力（FLOPs）の増大が、そのまま質の高い知能の向上に直結するわけではないという指摘である 12。

## 3.3. 倫理的・社会的リスクへの警鐘

アルトマン氏自身もリスクに言及しているが、他の専門家からはさらに強い警告が発せられている。

- **実存的リスク:** カリフォルニア大学バークレー校のスチュアート・ラッセル教授は、同サミットの別の場で、現在のAI開発競争を「軍拡競争」と呼び、規制なく進めば人類の「絶滅」につながるリスクがあると警告した。ラッセル氏は、巨大テック企業のCEOたちも私的にはその危険性を認識しているが、競争圧力の中で単独では開発を止められない状況にあると指摘し、政府による強力な規制の必要性を訴えた 13。

- **雇用の破壊と社会の分断:** アルトマン氏が示唆する雇用の変革について、より悲観的な見方も多い。AIによる自動化が、一部の専門職だけでなく、知的労働全般を代替し、大規模な失業と経済格差の拡大をもたらすとの懸念が根強く存在する 10。

## 4. サミットの成果とインドの動向

今回のサミットは、アルトマン氏の講演以外にも、インドのAI戦略における重要なマイルストーンとなった。

- **デリー宣言:** サミットの成果として、米国、中国、EUを含む88カ国が「デリー宣言」を採択した。この宣言は、AIの民主的な利用、信頼できるAIフレームワークの構築、そして包括的なAIガバナンスのための国際協力を推進することを謳っている 14。
- **Pax Silicaへの加盟:** インドはサミット期間中、米国主導の半導体サプライチェーン同盟「Pax Silica」への正式加盟を果たした。これは、AI開発に不可欠な半導体の安定供給網を確保し、中国への依存を減らす狙いがあると見られている 15。
- **国産AIモデルの登場:** インドのAIスタートアップであるSarvam AIが、500万ドルという低コストで開発したインド言語に特化した大規模言語モデルを発表し、注目を集めた。これは、インドがAIの「消費者」から「創造者」へと転換する可能性を示す象徴的な出来事と捉えられている 16。

## 5. 結論

サム・アルトマン氏の「India AI Impact Summit 2026」での講演は、AIがもたらす未来の壮大さと、それに伴う深刻なリスクの両面を浮き彫りにした。「2028年ASI到達」という予測は、技術的な実現可能性やその定義を巡って多くの懐疑的な見方がある一方で、AI開発のペースが加速しているという現実を国際社会に突きつけ、議論を活性化させる効果を持ったことは間違いない。

また、この講演とサミット全体を通じて、AI開発の主戦場が、単なる技術開発競争から、計算インフラ、エネルギー、サプライチェーン、そして国際的なルール形成を巡る地政学的な競争へとシフトしていることが明らかになった。アルトマン氏のIAEA構想や、デリー宣言、Pax Silicaといった動きは、その潮流を象徴している。

今後、アルトマン氏の予測が現実のものとなるか否かにかかわらず、AIのガバナンスを巡る国際的な議論はさらに激化するだろう。その中で、技術の民主化とリスク管理をいかに両立させ、人類全体の利益に資する形でAIを発展させていけるか。今回のサミットは、その重い課題を改めて世界に問いかけるものとなった。

## 6. 参考文献

[1] ビジネス+IT. (2026, February 22). OpenAIのサム・アルトマンCEO「2028年までにAIが人類の知能を超える超知性に到達」. Retrieved from

- [2] The Economic Times. (2026, February 19 ). Superintelligence soon? OpenAI CEO Sam Altman predicts advanced AI could arrive within a few years. Retrieved from
- [3] Forbes India. (2026, February 19 ). Data centres to hold more intellectual capacity than humans by 2028: Sam Altman. Retrieved from
- [4] Geek Metaverse. (2026, February 20 ). OpenAI’ s Altman predicts superintelligence by 2028 and calls for global oversight. Retrieved from
- [5] NDTV. (2026, February 19 ). Sam Altman, At Delhi Summit, Shares One Thing He Agrees With Others On AI. Retrieved from
- [6] Reddit. (2026, February ). Sam Altman (CEO of OpenAI) at the India AI Summit says that by 2028, the majority of world's intellectual capacity will reside inside data centers... Retrieved from
- [7] Times of India. (2026, February 19 ). AI Impact Summit: Mukesh Ambani says Jio, RIL to invest Rs 10 lakh crore on AI, believes artificial intelligence won't kill jobs. Retrieved from
- [8] Livemint. (2026, February 20 ). AI Summit 2026 Highlights: 'Cost of AI expected to fall dramatically...'. Retrieved from
- [9] Reuters. (2026, February 19 ). India's Tata signs up OpenAI as customer for data centre business. Retrieved from
- [10] Medium. (2026, February 21 ). Sam Altman Promised Superintelligence Again. This Time — to the Whole World. Guess Why. Retrieved from
- [11] Scientific American. (2026, February 14 ). First Proof is AI’ s toughest math test yet. The results are mixed. Retrieved from
- [12] i10X.ai. (2026, February 19 ). Sam Altman's 2028 Superintelligence Tipping Point. Retrieved from
- [13] Courthouse News Service. (2026, February 17 ). AI ‘arms race’ risks human extinction, warns top computing expert. Retrieved from
- [14] The Indian Express. (2026, February 21 ). India AI Impact Summit | Delhi declaration: Focus on democratising AI, 88 nations are signatories. Retrieved from
- [15] Times of India. (2026, February 20 ). What is Pax Silica and why does India joining the AI supply chain alliance matter?. Retrieved from
- [16] Business Standard. (2026, February 19 ). Sarvam AI story: From an idea to a \$5 million Indian AI startup. Retrieved from